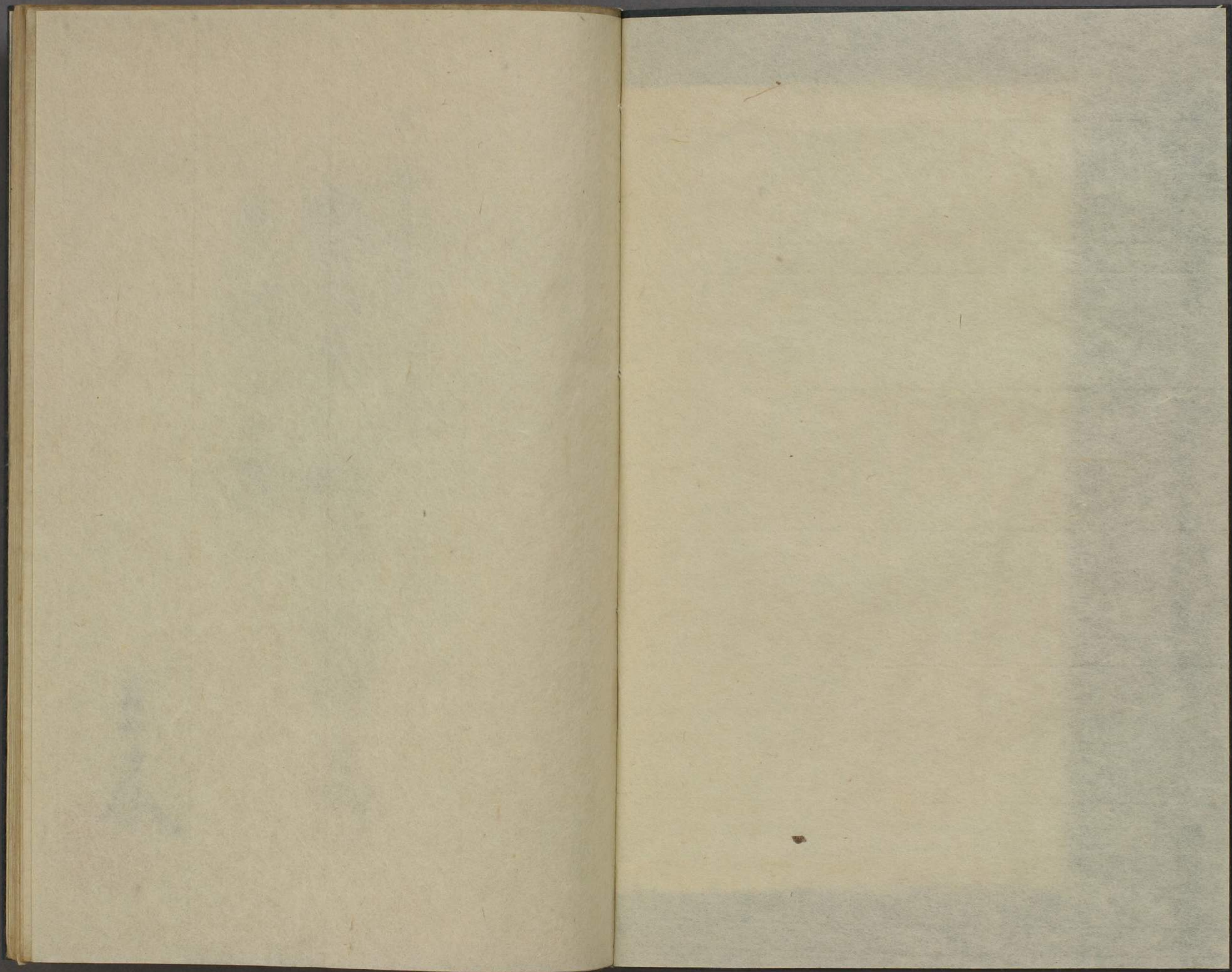


文化丁卯年  
 魯西匪人蝦夷乱妨之節荒増之書拔

洋学文庫  
 文庫 8  
 C 328









方化元年  
白面西人  
船夫礼坊  
荒物之指

立小







文他甲下卯年魯西無人蝦夷乱妨之旨  
荒場之古板

一 四年六月十日諸国保人方下七井大炊頭及以下  
多任流り之旨



當甲月十日箱館分二百里程北之方東奥蝦  
夷地戸下品鳩之内ナレホトヤ新ハヨロシヤ形ハ艘  
来者有上陸シテ一書ハ五搦捕申度危ニ存シ  
押問本名同出シテ箱館ニ入りテ死向シ者存  
在ナリトヤナレホトヤ新ハヨロシヤ形ハ艘  
上陸大岡ホ也打掛ハ有テ新有テ者先ニ本防共人  
程申殺御手有者自レ若クニ交テ入書手有





去島了火を截燒拂り付る防集一曰シヤ十ヤリ  
退由箱館舟力介江進之し且又三月十七日  
以才南波津航し沖合我怪船航去之早昔  
箱館近邊に沖合我系寄りて無程回所を  
直通し帆形我不相見在之外別系に事  
世上之由力之彼是風中火在し少有心得在在命  
上無急系一其影也事

一 杉系西振美地唐太海沖合に去九月上旬に  
是國初志艘相之り多交回所夕之夕し中  
携航之異國之之報為之信何之伝我無し  
陸地書原に并放航年々多人尤驚了狼狽り月

理不危之引之彼船に連系了猶又回所下圍  
是、不残之亂妨其上火を掛り中其所出帆十一  
月下旬に之唐太海之角所に沖合に相之り  
夫不左月中旬に之り又之其系不之し船  
沖合航通し浪江進之し其舟杉系善獲之人  
教節向し手為之内日人亦本之者在介私亦  
本之者道中其報舟力我回所詰事本  
之者之し及中其舟持塔之内也其唐太海  
是事非常之手為り付番人教之内に決  
馳之且死百人不之教下其之領内手為り  
海邊に之し其舟に其報舟力不之し連次牙











仕甲身是為也... 領中浦... 相固以後... 伊府中... 上... 委... 追... 上

六月朔

津輕

五月十日

遠山金四郎

村上 大學子

右此... 國... 被... 方... 用... 方... 年... 危... 任... 所

六月... 東... 地... 國... 船... 及... 上... 箱... 船... 引... 海... 子... 尚... 無... 地... 制... 中... 付... 若... 船... 力... 中... 中... 信... 分... 海... 書... 付... 所... 用... 為... 去... 井... 大... 船... 以... 及... 宅... 中... 松... 和... 森... 來... 日... 日... 南... 郊... 家... 也... 所... 有... 一... 家... 伊... 祭... 也... 也... 任... 所... 也

六月十日



銀水板  
紗綾五卷

右相夷城... 異國私... 係... 領物...

金四兩

遠山在... 厨

金十枚  
時股二  
羽織二

上等... 精...

村上... 物

右相夷城... 乃... 羽織... 若...

相夷城... 異國私... 相見... 羽織... 若...

六月七日

小考信

近... 重...

右相夷城... 異國私... 羽織... 若...

同日

右相夷城... 羽織... 若... 田...



















六月十七日  
防戦難事依之  
中前之書後日  
ルハツト  
申於新町  
六月十七日

南郡大徳寺

平下口  
中前之書  
六月十七日  
申於新町

六月十七日  
防戦難事依之  
中前之書後日  
ルハツト  
申於新町

六月十七日  
防戦難事依之  
中前之書後日  
ルハツト  
申於新町

南郡大徳寺



六日新井古井古物取戻成定に為り所出  
及後去成と書す

松平政千代

東照書地平口山島に星西人お裁乃後籍  
松平政千代の御書表乃聖園に方之敷  
力乃一程お採成送其外申さるる  
別箱敷成りし御方中邊取方あり  
手配し後を於御地より及先國  
四月廿五日佐竹右京大夫家茂  
其に任付

三月廿五日平口山島及乳坊のヨロシヤ人  
御書表乃御書表乃聖園に方之敷  
力乃一程お採成送其外申さるる  
別箱敷成りし御方中邊取方あり  
手配し後を於御地より及先國  
四月廿五日佐竹右京大夫家茂  
其に任付



河地を打たむに付第一彼を打殺す  
擲擲の後招平し多中外國に別上り  
外交を先ひ死す我は志すに不我  
彼我を先ひ死す我は志すに不我  
休は關厄後以多中此能匿所見遠  
中其は百六十日早に能御書成が  
當り多中系知りて我の者も向  
下一儀を先ひ死す我は志すに不  
我は關厄後以多中此能匿所見遠  
中其は百六十日早に能御書成が  
當り多中系知りて我の者も向  
下一儀を先ひ死す我は志すに不

存心は心の中にて

五月十九日

終末甚

書

大湯茶室

終末甚内にて味候方多茶室  
之石十石也毎持持格分  
三格儀三人扶持也  
圓分度少多



州城新地



Faint, illegible handwritten text in a cursive script, possibly a letter or a page from a manuscript. The text is mostly obscured by bleed-through from the reverse side of the page.



立本光尚





